なぜ生乳余りが問題となっているのか①

＜例年のサイクル＞

■ 生乳[注1]は、**例年、春先と年末年始に需給が緩和**[注2]しますが、**ウシは毎日お乳を搾らないと病気**になってしまうため、**搾る量を増減することはできません。**

注１：搾ったまま（殺菌等をする前）の乳　　注２：需要より供給が多く、余りがちになること

■ 春先は、**ウシにとっては快適な気温で生乳生産が好調**になる（図１）一方、**ヒトはあまり喉が乾かない**ことや春休み・GWで**学校給食がないため消費が少なくなり、生乳需給が緩和**します（図２）。

■ 年末年始は、生乳生産は多くありませんが（図１）、冬休みで**学校給食がない**上、お正月にはあまり**家庭で牛乳が飲まれない**ため、**消費量が極めて低水準**となり（図２）、**生乳需給が緩和**します。

図１ 生乳生産量の季節変動

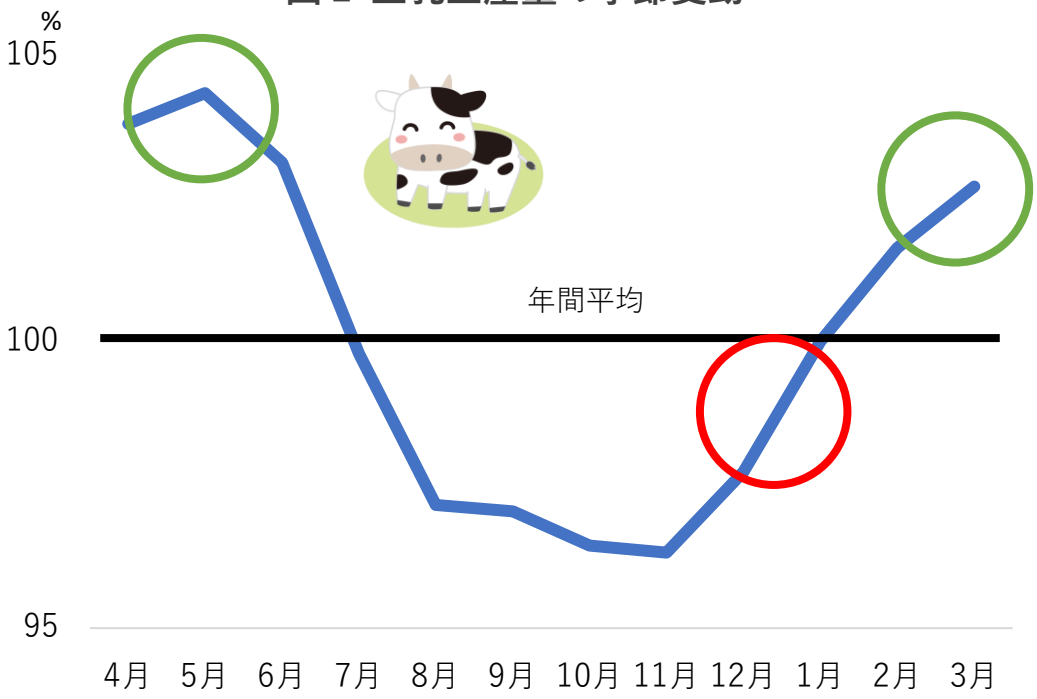
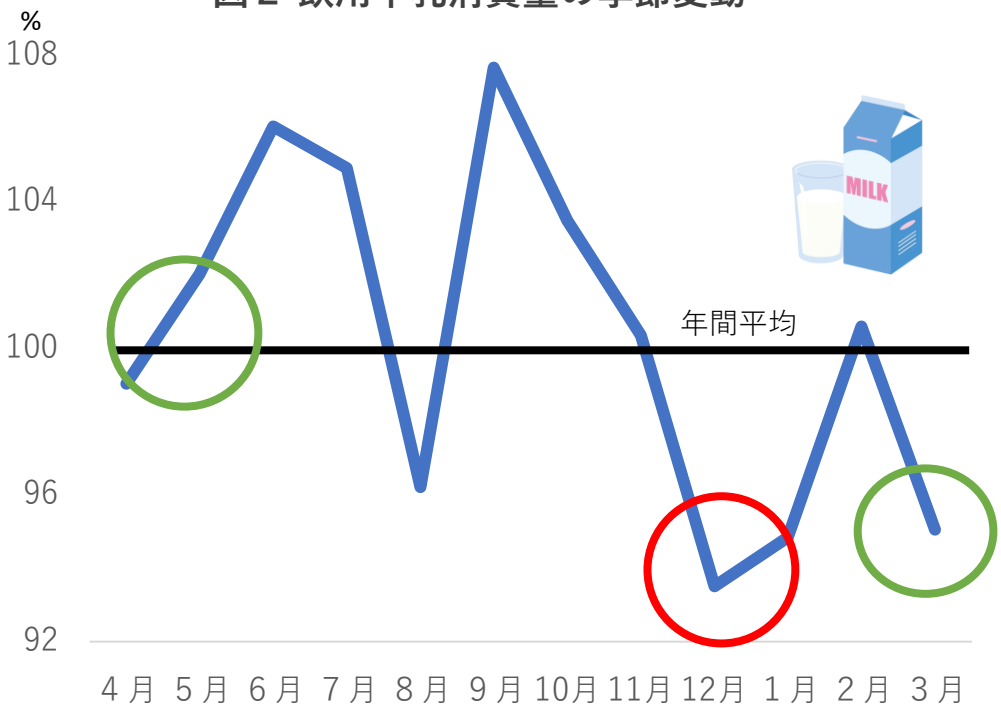


図２ 飲用牛乳消費量の季節変動



出典：牛乳乳製品統計を基に牛乳乳製品課作成